愛町分教会宿舎前にて

取材協力:セレクトインターナショナル

2 世界放浪の旅を支えてきたウォレス・コレクション

写真は、EVOLUTION完成のためにアダムが投宿している愛町分教会の宿舎。背景に見える建物は、教会の仲間達が力を合わせてつくった「ドーム」と呼ばれるもの。アダムとエリザベスはここでEVOLUTIONの構想を練っているのだ。4本ヴァルヴのモネット「タントラ」の先には、そして彼が手にしているのは…

自然な吹奏感で選んだ逸品

アダムの世界放浪の旅は、始まったばかりだ。今回のEVOLUTIONのために愛町分教会が提供してくれた宿舎は、昼夜を分かたず創作作業にいそしむアダムにとっては最高の環境だが、いつもそうとは限らない。

「旅先で愛用しているのは、これだよ」

と、アダムが見せてくれたのは、一見ごく普通の練習用（プラクティス）ミュート。装着すれば音量をぐっとさげることができるタイプで、現在各社からさまざまなものが登場している。その優れた機能については後述するが、それに限らず彼が愛用しているのは「ウォレス・コレクション」。イギリス生まれのトランペットの名手で、フィルハーモニア管弦楽団首席として知られた達人、ジョン・ウォレスが創業したブランドだ。ロンドンにある同名の有名な美術館にひっかけた洒落たネーミングは、いかにもウィット溢れる英国人気質が表れているが、ウォレス氏はさらに同名のブラスアンサンブルのリーダーとしても名高い。炭鉱での福利厚生としての金管バンド・メンバーの楽器生活を赤裸々に描いた映画「ブラス！（原題: Brassed off！）や、あのフィリップ・ジョーンズ金管アンサンブルを生んだことで世界に冠たる「金管王国」の名を恣（ほしいまま）にするイギリスが誇る、達人楽器族の一人で、2002年にはロイヤル・スコティッシュ王立音楽アカデミーの学長に就任した。ウォレス・コレクションのWebサイトには、綺羅星のごとく世界各国の名手が名を連ねているが、アダムもその一人なのである。ここでご紹介するウォレス・コレクションのミュートにはどれも設計者イアイン・ミュアヘッド氏（ロイヤル・スコティッシュ管弦楽団などで活躍したヴェテランで、ウォレス氏とともにロイヤル・スコティッシュ王立音楽アカデミーで教鞭を執る）の名前が刻まれている。アダムは直接ミュアヘッド氏からこの製品を紹介され、それ以来愛用しているそうだ。ミュートは単なる道具ではなく、やはり楽器の一部。いかに音楽的なミュートを選ぶか。そこに奏者のこだわりが表れるのだ。

「音楽的であるかどうかは、とても大事なこと。最初に試したのはストレートミュートで、先端が銅（コパー）

で出来ているもの（TWC-302）の音色は素晴らしいよ！これは使える、と直感した。喇叭吹きの気持ちをよく分かってくれていると直感した。それで、イアインさんと親しくなったんだ」

金管楽器奏者は唇が楽器の一部だから、毎日「吹く（つまり、振動させる）」ことがなにより重要だ。これは精神論とか根性論で語れるものではなく、真実。いうまでもなく人間の身体は音楽を奏でるためだけのものではないから、唇は毎日さまざまな「仕事」にさらされる。しゃべったり、飲んだり、食べたり、キスしたり？最後のはあまり縁がないなあ…という喇叭族も、「楽器」としての唇の感度を常に磨いておく必要性については異論のないところ。手錬（てだれ）のなかには、キスさえ感覚を鈍磨させることにつながる…という人物もいるのだ。

いずれにしても、唇の感覚を研ぎ澄ますには楽器を吹くのが一番。毎日のように仕事で楽器を吹くプロフェッショナルならいざ知らず、他に仕事をもつアマチュア金管楽器族にとっては、音量を抑えることができるプラクティス・タイプのミュートは非常に便利なアイテムだ。ところが、ベル先端になにかを差し込む、ということは、空気の流量が制限されることになる。どれだけ普段と変わらない、自然な吹き心地が得られるミュートを選ぶのが金管楽器族の常識、特にミュートの指定が多いトランペット奏者は、いやでもそのミュートが音楽的であるか否かに敏感にならざるを得ない…というわけで、アダムが迷わず選んだのがウォレス・コレクションだった。なかでも先述のストレートと、これから紹介するプラクティスは、現場の協力なしでは完成されなかった。

吹奏感や音程を変化させず「こっそり練習」そんなプラクティス・ミュートTWC-M17には、こんな機能も！

ウォレス・コレクションのなかでアダムがもっとも注目しているのは、プラクティス・ミュートTWC-M17。これは一見太めのストレートミュートみたいに見えるが、実は

「吹奏感やピッチの変化がほとんどないのが素晴らしいんだ」

とアダムが激賞するプラクティス（練習用）ミュート。実はすでに日本国内でも「低音までしっかり鳴る」「吹奏感がとても自然」と、多くのプロフェッショナルから熱い注目を集めている逸品。うるさ方とつきあう楽器店のヴェテランたちも、自分たちのお客さんがみなこのミュートにほれ込むのを目の当たりにして「信者」に一変。いまやファンが急増中なのだ。その一人がアダムである。

「このTWC-M17は音程が上ずったり、ぶら下がったりすることがない。音程がいい（In Tune）であることが何よりうれしいね。それにとても自然な吹奏感やしっかりと鳴る低音も気に入っているよ」

と、ぞっこんなのだが、先述のとおり一足早く「信者」になったアダムは、ウォレス・コレクションの使いこなしにも詳しい。

「ほら、こうしたら…」

と、アダムが見せてくれたその機能に、取材班はちょっと驚いた。近くにあった鉛筆を使ってミュートの中央部にある可変レジスターを抜いて吹いたのだ。

「ね、マイルスみたいな音になるでしょう（笑）」

TWC-M17は、簡単な操作で消音を目的とする「道具」から音質の変化をもたらす「楽器」に変貌するのだ。ワウワウ・ミュート（ハーマン・ミュート）の中央部にあるステムを抜いた状態で映画「死刑台のエレベーター」の音楽を即興でつくりあげたマイルス・デイヴィスは、ミュートを「楽器」として使いこなした第一人者だ。可変レジスターを抜いた状態のTWC-M17は、そんなマイルス風の音色も楽しめるスグレモノでもある。

「深夜にインスピレーションが沸いたときにはプラクティスモードで…そしてステージで使用する際にはハーマン風の音色を狙って…という、二通りの使い方ができるのがうれしいね」

アダムの世界放浪の旅は続く。ウォレス・コレクションは最高の「旅の仲間」となることだろう。

TWC-17（アダムのモネット「タントラ」に合うように調整された特注品）をつけて吹くアダム。ペダル領域からダブルハイ領域まで、ミュートをつけてもピッチの変化がなく、すべての音域にわたってバランスのよい響きがする

コバーエンドのストレートTWC 302もアダムのお気に入り

数多くのプロから熱い注目を集めつつあるウォレス・コレクション。アダムのwebサイトでもリンクがはってある